

SORA

web magazine 2014.apr. vol.32

Travel

コスタリカ・ココ島 *Cocos Island*

2度目の世界遺産・ココ島ダイブクルーズ!

コスタリカ共和国の本土から南西約 500 km 離れた場所にあるココ島（別名ココス島）。

切り立った緑の崖には幾筋もの滝が見える。映画「ジェラシックパーク」の冒頭で使用されたシーンが撮影された島。ダイバーならば、誰でも憧れる大物と驚きが溢れる海に再びやって来た!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP
CLICK!



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2012
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.





9月20日の午後3時頃クルーズ船に乗船し、そのまま一路、ココ島へ。最初は穏やかな海況で、昼食。そして、デッキから数頭のザトウクジラを眺める。ビールを飲みながらサンセットを迎え、夕食を終えて、就寝。立てないくらいに揺れると思われていた船の揺れはそれほどでもなく、翌21日を迎えた。揺れはそれほどなかったが、することがないので、ベッドの上でうつらうつら。日常生活の寝不足を解消するかのように、とにかく眠った。もちろん、朝食、昼食、夕食はしっかりと用意されているが、食べる食べないは自由。結局、私は2食パスして、夕食だけを頂いた。そしてビールを飲んでもう一度、就寝。クルーズ船がココ島に着いて、アンカーを下したのは翌22日の早朝4時頃だった。約36時間の無責任で楽しい時間は終わりを告げた。

Travel

コスタリカ・ココ島
Cocos Island



ハンマーヘッドシャークの群れ!

船とダイビングのブリーフィングを終えて、チェックダイブ。サンゴと砂地の合間を進んでいくと、コルテスエンジェルフィッシュなどのあまり馴染みのないお魚たちが現れる。そして、ギンガメアジの群れが何かに追われるように慌ただしく現れると、その後ろから、1匹の大きなハンマーヘッドシャークの影が見えた。また大きなマダラエイを1ダイブで10匹ほど見る。それでもチェックダイブ?という内容の1ダイブを終える。その後、ココ島のレンジャーから島の環境保護のためのレクチャーを受けて、2本目へ。ポイントは船を停泊している場所からボートで2分後ほどの「マニュアル」というポイント。エントリーして、水深20mほどにあるクリーニングステーションの前で待っていると、ハンマーヘッドシャークの群れが現れる。バーバーフィッシュに体を掃除してもらうために、何度も何度も同じ場所にやってくる。少し呼吸数を抑えていると、とてつもなく接近することができる。ハンマーヘッドシャークがたくさんいるので、予定を変えてずっとその場所にいた。良い写真を撮るタイミングは突然やってくるので、気が抜けない。時々、予想外に接近してくることがある。その時がチャンス。そして、最後の最後にジンベイザメが現れた!(私は見ていないけど。)
「これが2本目のダイビングか!」という衝撃を受けて皆がボートに潜ってくる。そのあとのランチ。美味しいパスタを前にして、「このクルーズでダイエットする!」と言っていたみんなは、よほど気持ちが良いのか?お替りして、パクパクと食べ続けていた(笑)。



Dirty Rock と Alcyone

ココ島の周りは、良いポイントが本当に多い。年間に3度もココ島クルーズにやって来ると言ったドイツ人夫婦が好きだと言ったポイントは、「Dirty rock」と「Alcyone」。この両ポイントの名前は、私も2年前の取材の時からはっきりと覚えている。「Dirty Rock」は、水面から小さく出た根が海底にも続く。水深20mほどのクリーニングステーションで待っているとハンマーヘッドシャークが、群れとなって現れる。クリーニングされているハンマーヘッドシャークとブルーウォーターにいるハンマーヘッドシャークの群れの2パターンが同時に見られるので、とても好都合なポイントでもある。そして、離れ根に向かうと、大きなギンガメアジの群れと遭遇。その群れに大きさに飲み込まれる。

そして、「Alcyone」は、ココ島から少し離れた離れ根。水深20mの隠れ根に潜っていくと、頭上にたくさんのハンマーヘッドシャークが群れている。パラパラと現れるときもあれば、ハンマーリバーとなって海中を覆い尽くすことも。やはり、ココ島の代表的なポイントだ。

コストリカ・ココ島
Cocos Island



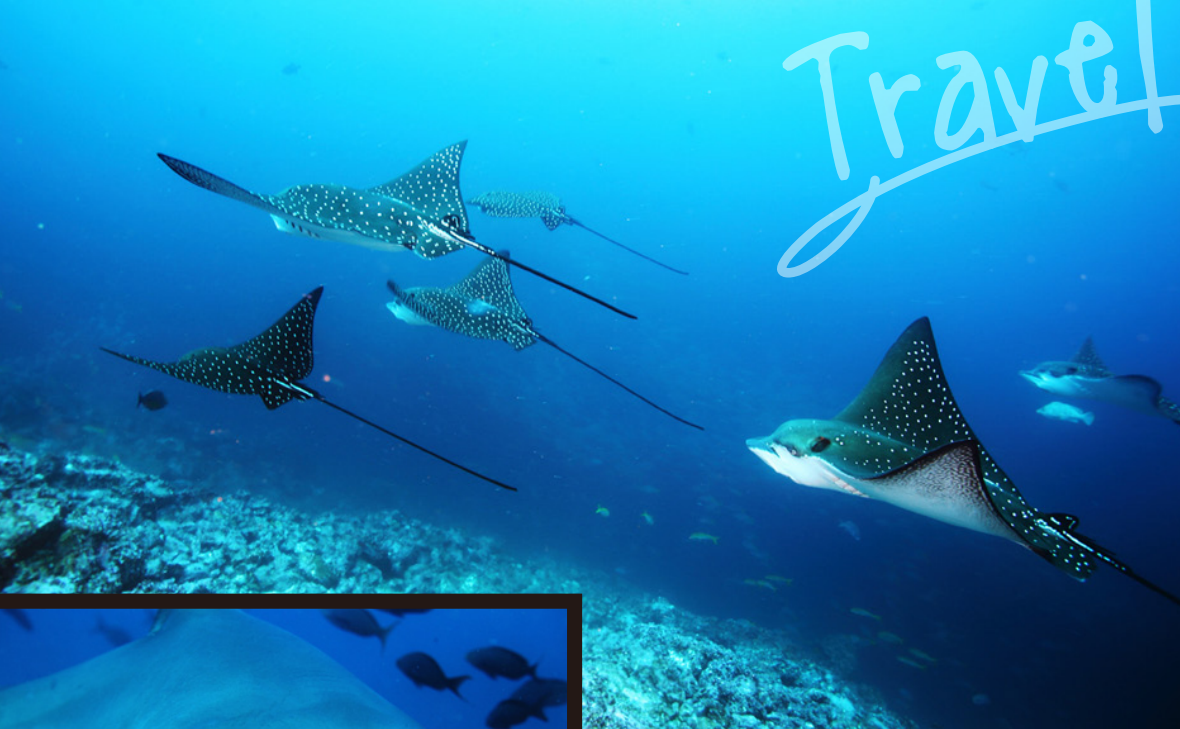
Travel

Travel

コスタリカ・ココ島 Cocos Island

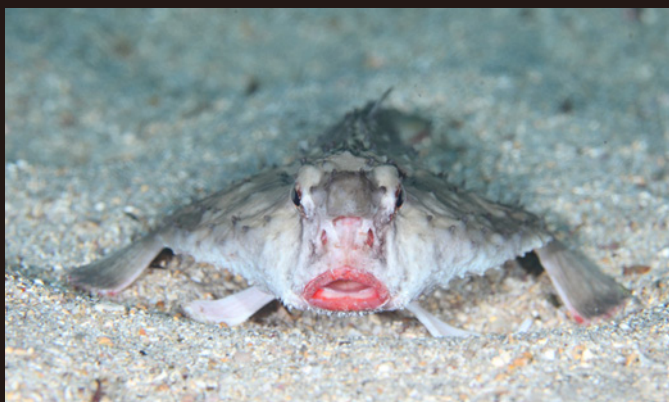
今回、2回目となったココ島取材だが、やはり1回の取材ではわからないことが多い。改めて、素敵だなと思ったポイントは、まず、「Punta Maria」。根の上のクリーニングステーションは、大きなガラパゴスシャークが何匹も徘徊する。ガラパゴスシャークは、大きく迫力もあるので、見応え十分。そのサメが目の前まで接近するので、思い出のダイビングになること間違えなし。そして、感動したのが、離れ根。円錐の離れ根の周囲には、スナッパーなどもお魚がたくさん群れ、そこに多くのネムリブカが回遊している。天然の素晴らしい水族館のような雰囲気がある。また、「Big Dos Amigos」も良かった。メインの大きなトンネルは変わらずお魚が群れ、独特の深淵な雰囲気の中に生き物たちの存在を感じる。今回はガイドさんが離れ根に連れて行ってくれた。この離れ根は、ハンマーヘッドシャークのクリーニングステーションがあり、ギンガメアジの群れが取り囲む。素敵な空間だった。そして、「Small Dos Amigos」。水深20m 辺りに、ヨスジフエダイが群れ、その群れの向こうにハンマーヘッドシャークやマダラトビエイの編隊が現れる。生き物たちがごちゃ混ぜになっている感じが素晴らしい。

まだまだある素敵なポイント！





魅力あるマクロの生き物



マクロの生き物では何と言っても、レッドリップ・バッドフィッシュ。「Lobster Rock」と言うポイントの水深 30m 辺りの砂地にいる。大きさは 25cm ほどで、正面から見る写真が多いが、その肢体をじっくり観察してみると何とも不思議な感じに驚かされる。1 グループ 8 名ほどで潜るが、見つけると順々に撮影するので、行列のできるお魚になる。ただじっとはしていてくれない。下半身を左右に振って水底を這うように泳ぐ。申し訳

ないが、みんなに追いかけられたレッドリップ・バッドフィッシュを最後に正面から写真を撮ってみたが、閉じていた口を開けて、まるで口で呼吸しているように見えた。どこか疲れて肩を落としたおじさんのように見えてきて、愛嬌に溢れたお魚だった。他にもフジツボの殻から顔を覗かせるギンボも面白い顔をしている。また、よく目につくがミズレフグ。黄色の個体と黒に白のドット模様のお魚。この子たちが、これまた目立って可愛い。

サメまみれのナイトダイブはいかが？

コストリカ・ココ島
Cocos Island

日中は、サンゴと白い砂地が広がる穏やかなポイントの「Coral Garden」。しかし、夜になると世界でも有数のナイトダイビングのポイントになる。見所は、夜に集団捕食を開始するホワイトチップシャークの群れ。エントリーして水中ライトを照らしながら進んでいくと、まるで示し合わせたかのように1匹そして1匹とライトの光に吸い寄せられるように集まってくる。ダイバーの一行の行先は明るく照らされていて、その光を利用して、ホワイトチップシャークが小さな餌となるお魚を探し、ハンティングする。少し趣味が悪いなと思いつつも、音もなく集まってくるホワイトチップシャークの数にまず驚き、何かの合図で一斉に岩の陰に頭を突っ込み、集団で捕食を始める。正直、接近するのが怖い。私たちが、ライトを当てなければ食べられずに済んだお魚もいると思えば、心が痛む。が、勢いよく岩の隙間に突っ込んで、抜けるのに必死で体をジタバタさせているホワイトチップシャークを見ると、少し笑えてくる。今回は3m近いガラパゴスシャークにも大接近。暗闇からそっと現れる恐怖を体感した。迫力のナイトダイブ。是非、一度体験してみてください。





Travel コスタリカ・ココ島 Cocos Island

今回、乗船したアルゴには、潜水艦「Deep Sea」が積載されていて、希望者は誰でも深海の世界を覗きに行くことができる。私も計画していなかったが、同じクルーズ船にあり、同乗しているゲストが新しい世界を覗いて喜んでいたので、体験してみた。

前日の夜、冷静に考えると少し目が冴えてくる。それは、翌日の朝、実際に潜水艦の乗り込むまで、時折やってくる緊張感は続いた。

最大深度、-300m…。どんな世界なのだろう。と期待する半面、もし何かあったら、もう生きては帰れないのかな? などと考えながら、説明を聞く。これまでに事故は一度もないとのこと安心した。潜水艦に乗り込んで、深度を下げていく。太陽の光がどんどんと失われ、漆黒の世界に入り込んでいく。-200m～300mは壁沿いを降りていく、深海のカニやお魚などを見ながら、宇宙空間のような世界へ。見上げるとモブラが2枚、頭上を泳いでいた。太陽の光は微かに見える。深度計を確かめると-220mだった。夢の中にいるような感覚だった。正直、ココ島での全てのダイビングに匹敵する、いや、もしかするとそれ以上の経験になったように思える。2時間半の深海世界への旅、金額はUS1,800ドル。行ってみると安い金額だったように思える。

-300m、深海の世界へ



Travel



心地の良い空間と雰囲気

今回、お世話になったアルゴもそうだが、Undersea Hunter グループのクルーズ船は実に乗り心地が良い。船の施設が広くてのんびりできることもあるが、きっとそれは、ダイブガイドとクルーのお蔭だと思う。今回ドイツ、オランダ、ロシア、アメリカ、ブラジル、日本と世界各国のダイバーが集まった。そんな言葉のコミュニケーションも大切になる乗客たちでも、良い雰囲気作りを心掛けてくれる。ダイブガイドは、陽気で明るい、タフな海でガイドをしているのに、屈強さというよりは、優しさが優先している感じ。レストランのウェイターは、クルーズ中に最もゲストと絡む存在かもしれない。いつもジョークを交えながら、楽しい時間を提供してくれる。コスタリカの国民性もあると思うが、適材適所の人材が配置される感じがする。食事バラエティーに富んでいて大変おいしかった。お肉料理が多いが、それでも、パスタやピザなどを織り交ぜて飽きることがなかった。それに毎回サラダがふんだんに用意されていたのも良かった。朝食には、オーダー制の卵料理も付く。滞在中、ソフトドリンクやお水、コーヒー、紅茶、ビールなども無料。ワインは、15〜30ドルくらいでボトルを購入できる。





世界のダイバーたちと共有する海中景色

Travel

コストリカ・ココ島 Cocos Island



ダイビングスタイルは、2つのグループに分かれる。最大乗船人数が18名なので、グループの最大人数は9名になる。ふたつのボートに分かれて、別のポイントを交互に潜る。他のクルーズ船とも連絡が取れているのか、同じポイントで2隻のボートが重なっていることを見たことがない。だから、いつでも、そのグループだけでポイントを独占できる。およそのスケジュールは、朝7時に朝食、8時から1本目のダイビング。11時から2本目のダイビング。13時から昼食。15時から3本目のダイビング。19時から夕食。ナイトダイビングの時は、夕食の前にナイトダイビングとなる。3本目のダイビングを終えると、ワイン&チーズパーティーがあったり、夕食の後は、船のTシャツなどの販売会や、みんなでビデオ上映会などもあり、広いリビングには、いつも誰かがいる状態。半屋外の広いサンデッキでは喫煙することができる。国籍も違う世界中のダイバーがココ島という素晴らしい海中景色を共有して、旅を続けていく。